

日本性科学会 ニュース

第33巻第1号

平成26年(2014年) 3月

発行人: 大川 玲子 印刷所: 藤 繭 文 社

第43回セックス・カウンセリング研修会 テーマ: 不妊症と性機能障害

日 時: 2014年5月25(日) 9:30 ~ 16:30

場 所: 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂

受 講 料: 一般 12,000円 学会会員 10,000円 学生 3,000円

プログラム:

9:30 ~ 9:35 開会の挨拶

日本性科学会理事長 大川 玲子

9:35 ~ 10:20 性機能障害の治療と不妊治療の選択

国立病院機構千葉医療センター医師 大川 玲子

10:20 ~ 11:05 不妊治療と性生活—女性の性のQOLと医療者の関わり

聖路加看護大学教授 森 明子

11:05 ~ 11:15 休憩

11:15 ~ 12:00 生殖医療の最前線 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系教授 菅沼 信彦

12:00 ~ 13:30 昼休み (13:00 ~ 13:30 日本性科学会総会)

13:40 ~ 14:25 難治性男性性機能障害における集学的治療

泌尿器科やまなかクリニック院長 山中 幹基

14:35 ~ 16:20 カウンセリングの基本講座・症例報告・ロールプレイング

日本性科学会カウンセリング室・主婦会館クリニック臨床心理士 金子 和子

16:20 ~ 16:30 修了証授与

閉会の挨拶

日本性科学会副理事長 阿部 輝夫

第34回日本性科学会学術集会「生殖と性」

日 時: 2014年10月12日(日)

場 所: 岡山大学 Junko Fukutake Hall (愛称 J-Hall)

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学医学部 鹿田キャンパス内

お問合せ 086-235-6538 (岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室)

大 会 長: 中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科 岡山大学ジェンダークリニック

岡山大学生殖補助医療技術教育研究 (ART) センター

シンポジウム: 「生殖、セクシュアリティを性教育の中で取り上げる」(予定)

第16回性科学セミナー: 日本性科学連合

日 時: 2014年10月11日(土)

場 所: 岡山大学 Junko Fukutake Hall (愛称 J-Hall)

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学医学部 鹿田キャンパス内

日本性科学会学術集会・性科学セミナー合同懇親会

日 時: 2014年10月11日(土) (会場は未定)

Vol. 33

No.
1

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

21st Congress of the World Association for Sexual Health 学会報告～その2

東京大学総合文化研究科 正岡 美麻

2013年9月21～24日、ブラジルのボルトアレグレで21st Congress of the World Association for Sexual Health (第21回世界性の健康学会)が開催されました。前回荒木乳根子先生がイグアスレポートを書いてくださいましたが、今回は学会中の様子を報告させていただきます。

地域のサンバグループが登場しブラジルの参加者も踊り出す熱い開会式から始まった今大会は、毎朝8時半スタートという密度の濃いスケジュールでした。

この学会の醍醐味の一つは、その発表内容の幅広さにあると思います。医学・薬学や生物学的な観点、社会科学分野の研究などの学際的な発表の場であり、アカデミックな職に就いている人に限らず、アクティビストの発表も多く、当事者からの発信もあるため、内容は本当に多岐に渡ります。

その好例として「Gender Identity Issues」というセッションをご紹介します。私はそこでFemale-to-Maleトランスジェンダー／トランスセクシュアルのQOLについての研究報告を行いました。後の発表者がMale-to-FemaleのQOLについて発表していたので調査方法を尋ね合ったりする良い機会を得られました。一方同じテーマ中でも他のメンバーは全く異なる発表内容で、例えばトップバッターの方は活動家としてLGBTの子どもを対象とした情報提供プログラムの実践の報告をされていました。インドからの参加者からは、ヒジュラの人に去勢の手法や内分泌学的なアフターケアの必要性などの科学的情報を届けることの必要性和困難さについて聴くことができました。司会の東優子先生の計らいもあり、最後はこうした全く違う話をした人同士が、フロアも交えて質疑やディスカッションをしあえていました。

もう一つ印象深かったのは「Brazil-Japan session」です。ブラジル・日本からの参加者が20人程集まり、ブラジルで長く研究に携わっていらした東海大学の小貫大輔先生の通訳の元、性のお国事情を質問しあう特別企画。ブラジル流の頬にキスをする挨拶、日本流の離れてお辞儀をする挨拶を交わしたのちフリートークへ。出産のスタイルや出生率の低下とその対策、若者のセックス、中高年のセックス、草食男子、メディアでの性の扱われ方、トランスジェンダーの治療、等々、ここでも豊富な話題が次から次に飛び出し、すかさず誰かが挙手して答え、小貫先生がギブアップされるまで途切れることなく話の続いた刺激的な時間でした。

学会中耳にした「性の権利は何か特別な人の為のものではない。私たち一人一人のためのもの (sexual rights for us)」という当たり前のような言葉が強く心に残りました。それはこの言葉を実感するに足る、本当に多彩な発表があり、様々な参加者の方々と接する機会があったからこそ、だと思います。

2014・2015年日本性科学会理事選挙結果

この度理事選挙（全国1ブロック）において、下記の通り立候補届けがありました。

（受付順） 永井 敦 村口 喜代 石河 修 塚田 攻 大川 玲子
阿部 輝夫 茅島 江子 早乙女智子 高波真佐治 菅沼 信彦

それぞれの立候補者について、立候補資格要件（5名の推薦者、入会以後3年以上）をチェックしすべて適格でありました。

また、立候補者数が定員の枠内でありましたので、無投票で全員を当選者と決定致しました。

2014年3月6日

日本性科学会選挙管理委員会

委員 針間 克己 大谷真千子 花村 温子 今井 伸

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会報告

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

本年も日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2014年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示は、6月発行の日本性科学会ニュースに掲載されます。

尚、更新該当者氏名（登録順）は以下の通りです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は御準備を御願ひ申し上げます。また、同時に2014年度新規資格認定に関する告示もニュース6月号で行います。

資格更新該当者 セックス・カウンセラー 佐藤 昭雄・内野 英幸
セックス・セラピスト 永井 敦・岩佐 厚

会費納入の御願ひ

4月より新しい年度（2014年4月1日より2015年3月31日）にはなりますので、2014年度年会費（一般12,000円 役員15,000円 学生5,000円）の御納入を、宜しく御願ひ申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封致しますので、御利用下さい。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送り下さい。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員用の郵便振替用紙を送付致しますので、その用紙でお振込みを御願ひ申し上げます。

第33回 日本性科学会を開催して

第33回日本性科学会会長 早乙女 智 子

学会長を仰せつかるとは思ってもいなかったのが最初は何かの間違いかと思ったが、根っからの楽観者である私は、大川玲子理事長の依頼をそのまま受け止めさせて頂くことにした。「日本性科学会」は、日本医学会に名を連ねるれっきとした学会である。しかし、普段お世話になっているある産婦人科の重鎮は、私に向かって、性科学なんて学問ではない、そんな学会は認めない、とおっしゃった。日本の産婦人科医師の性科学に対する認識がその程度であることは大変遺憾であり、性科学を学問としてさらに追及したいと思った次第である。

今年の学会は、2010年から開催している「性の健康デー」記念イベントも同時開催とした。また例年通り「性科学連合性科学セミナー」が前日午後に開催され、実績も実力もない中で、多くの方の善意に支えられて3つの異なるイベントが順次終わって行くときの安堵感は何ともいえないものだった。天候は決して良かったとは言えないが、翌日の台風直撃に比べれば、開催できただけ強運だったと言わざるを得ない。参加者は、14日(土)が90名以上、15日(日)が120名以上であり、収支も何とかあった。余剰は夏にご縁を頂いた陸前高田に寄付させて頂いた。協賛団体等に重ねて深くお礼を申し上げたい。

さて、肝心の内容だが、私の野望に「性哲学」Sexosophyの拡充がある。まだ学問として熟していないが、「性哲学者」Sexosophist?と呼ばれるのが夢である。そのような意味合いをこめて、学会テーマを「性科学から性哲学へ性科学の守備範囲再考」とした。そして会長講演として「対比と相同、グラデーションとしての性」というテーマで、性の相談外来や一般産婦人科臨床を通して見た性の課題を提示させて頂いた。性科学会認定セックスセラピストとして13年、まだ自分の中でもこなれていないが、これが出発点と考えている。というのも、多くの学会で、業績の集大成として学会長をされると思うのだが、私には実績も乏しく、まともな論文もなく、また学会長の打診があったところに私は大学院受験を考えており、甚だ不思議な学会長になったのである。大学院生で学会長、というこれからの出発の饒と思って、指導教授の菅沼信彦先生に座長をお願いして、私の臨床経験の経過から今後の研究につながるようなまとめをさせて頂いた。

特別講演には、ご縁のあった高野山大学教授の前谷恵紹先生に「仏教哲学からみた性—仏典は性をどう語ったか—」というタイトルでお話頂いた。仏教が女性蔑視をしているのではない、という論点を膨大な文献をもとに語って下さり、座長の横浜市立大学病院長の平原史樹先生も勉強になったと仰って下さった。ご多忙の中、各先生方に快くお引き受け下さり、素晴らしい特別講演となったことを感謝している。

シンポジウムⅠは「生殖に直結しない性」で、普段から気になっていた、生殖を考えると性と生殖を度外視したときで分けて考えるとどうなるのかを語って頂いた。シンポジウムⅡでは「性被害・加害とSMの世界」という風変わりなチャレンジを強行した。SMの中にある人間愛と信頼を、加害・被害となってしまう人間関係と対比させたかったのが意図だった。

一般演題には15題の応募があり、全部採用させて頂いた。しかし、演題応募がさらに増加した場合は、性科学の領域の社会性や曖昧さが今後の演題採用の課題となると思われた。

9月14日は、WASの提唱する9月4日「性の健康デー」に関連して、「第4回性の健康デー記念イベント」も同会場で開催した。性についてのエッセイ等を募集し、その発表を行うという斬新な企画と、7名の女性が性を語るトークショーで、どちらも盛況だった。

そして、この学会を盛り上げてくれたのは、フルート奏者の吉川久子さん。ヨコハマ港町13番地の居酒屋『弁慶』で開催した懇親会場で、鎌倉駅の発着音となっている曲を始め、得意の子守唄など、予想外の70名がひしめく居酒屋で横浜の夜は更けて行ったのだった。



働く女性が月経随伴症状を通じて経験する葛藤に関する研究

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース修士課程 樋口 紫 音

今回の研究会では、働く女性が月経を通じて経験する葛藤について、職場における社会通念に焦点を当てながら取り上げた。

近年、女性の社会進出が一般的となっている中で働く女性への健康支援は重要視されてきているが、女性の健康にとって重要と考えられる月経については、以前から対策の必要性が指摘されているものの、実際にはほぼ進んでいないのが現状といわれている(川瀬、2006)。また、甲斐村・上田(2012)によれば、月経周辺期症状について精神社会的側面を含めた多方面の視点が少ないことが指摘されている。働く女性の月経随伴症状に伴う困難には、職場環境の在り方が密接に関わっていると想定されるが、これまで精神社会的側面を包括的に捉えて検討した研究は見られない。働く女性が月経を通じて経験している葛藤、さらに、そうした葛藤への対処について、職場の社会的要因に焦点を当てながら検討した。

13名の研究協力者(23歳～25歳、就業年数2～3年目)に調査面接を行い、質的分析を行った。その結果、月経時の自身の状態と、「仕事は普段通り行うもの」「月経は職場に持ち込まないもの」といった社会通念との葛藤が経験され、働く女性が「仕事への悪影響に関する懸念」と「周囲に月経を知られることへの恥意識」を抱いていることが分かった。さらに、月経を通じて否定的な経験が積み重ねられることにより、次回の月経の予期による否定的な感情が表れることが示された。また、こうした月経を通じて経験される心理社会的な苦痛への対処については、職場における「トイレ・コミュニケーション」として見出されたように、女性同士のピアによるサポートが機能していた。こうした対処は、職場への“公の場”という意識から、職場に適応しながら苦痛に対処するための工夫とも言えるだろう。

本研究の中で見出された、職場における社会通念は、女性が社会的な生活の中で月経を通じてどのような苦痛を経験しているか、複合的に理解する上で重要な観点と考えられる。月経は、女性自身の心身の状態と社会的背景との相互作用により成り立っている問題と捉えることができる。今後、月経教育プログラムを通じて、女性が適切なセルフケアを身につけること、月経への受容的・肯定的な認知変容を目指すことは重要といえる。しかし、月経を個人の問題として帰着させることに偏らず、月経により経験される心理社会的な苦痛に対して職場や社会が認識を深めることが必要と考える。

- ・ 甲斐村美智子・上田公代(2012). 文献的考察による若年女性の月経周辺期症状に関連する要因と今後の課題 熊本大学医学部保健学科紀要, 8, 11-21.
- ・ 川瀬良美(2006). 月経の研究 女性発達心理学の立場から 川島書店

症例研究会は、奇数月の最終週に事務局にて開催しております。今後の予定は、2014年3月26日(水)発表：大川玲子理事長、5月29日(木)、7月30日(水)、9月25日(木)、11月26日(水)、2015年1月29日(木)、3月25日(水)となります(発表者の都合等により日程変更になる場合があります)。ふるってご参加ください。症例や研究について発表していただける方も募集しております。



Asia-Oceania Federation of Sexology

開催日程：2014年10月22～25日

開催地：ブリスベン（オーストラリア）Mercure Hotel Conference Center

会長：Dr. Margaret Redelman <http://www.aofs-asia.org/index.htm>

抄録受付は3月7日から6月20日 詳細はホームページをご注目ください。

AOFS Japan では、若手の性科学研究者、活動家を育成する企画を組んでいます。

まずは2014年3月30日 14:00～17:00 JASE セミナー室にてシンポジウム：My Body My Life

スピーカーは、Sam Winter（香港大学）小貫大輔（東海大学）JSSS ホームページ参照。